

## 公表資料表紙

### 平成 25 年度「英語能力判定テスト」における 此花中学校の結果の概要と今後の取組について

大阪市では、生徒の英語力の充実と向上を図るため、教育振興基本計画\*に基づき、英語イノベーション事業\*の一環として、「英語能力判定テスト」を実施いたしました。このテストの目的は、生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、学校における英語の指導の改善を図ることにあります。

学習指導要領における中学校英語の目標は、4 技能（「読む」「聞く」「話す」「書く」）を総合的に活用できるコミュニケーション能力の育成と示されております。本テストで測定できるのは英語力の一部ですが、本校では、結果をふまえ、生徒の総合的な英語力向上を目指してまいります。

- 1 目 的
- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
  - (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の改善、工夫に役立てる。

2 対 象      大阪市立中学校 全生徒

3 実 施 日      ・ 3 年 生      平成 2 5 年 1 0 月 2 2 日（火）  
                    ・ 2 年 生      平成 2 6 年    1 月 3 0 日（木）  
                    ・ 1 年 生      平成 2 6 年    1 月 3 0 日（木）

4 内 容

学年	テストの種類	テストの難易度	テスト内容		満点 スコア
			筆記問題	リスニング問題	
3 年	テストD	英検 3～5 級レベル	50 題	30 題	460 点
2 年	テストE	英検 4～5 級レベル	40 題	25 題	400 点
1 年	テストF	英検 5 級レベル	25 題	25 題	340 点

\*教育振興基本計画…本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画

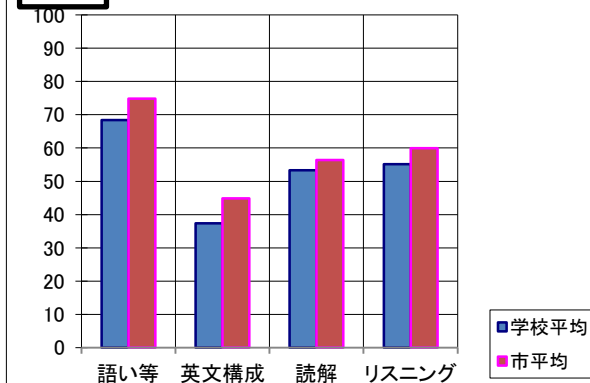
\*英語イノベーション事業…本市の英語教育強化を図るための事業

# 「英語能力判定テスト」結果(分野別正答率)の概要と今後の取組 大阪市立此花中学校

3年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	68.4	37.4	53.3	55.1
市平均	74.8	44.9	56.4	59.9

(%)

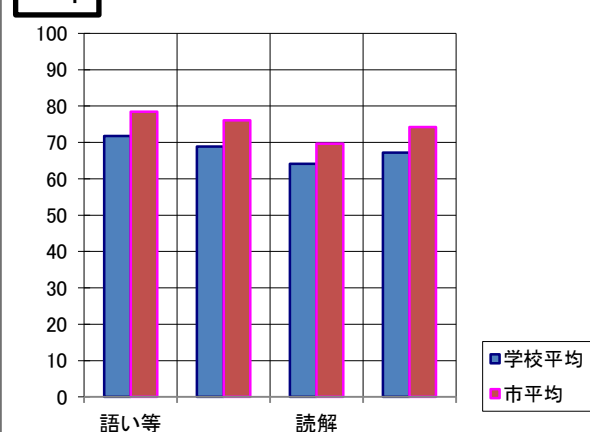
## 3年



2年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	71.8	68.9	64.1	67.2
市平均	78.5	76.1	69.7	74.2

(%)

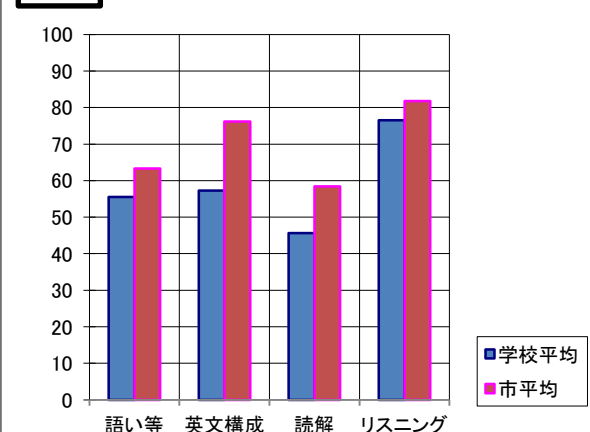
## 2年



1年	語い等	英文構成	読解	リスニング
学校平均	55.5	57.3	45.6	76.5
市平均	63.3	76.2	58.4	81.8

(%)

## 1年



## 結果の概要と結果をふまえた今後の取組

※各学年において実施したテストはそれぞれ種類が異なるため、学年間の正答率を比較することはできません。

### 3年

英検3～5級レベル:スコア 0～460点

《結果の概要》どの観点も大阪市平均を下回っている状況であるが、特に英文構成力は大阪市平均から8ポイントの開きがあり、4割程度にとどまっている。  
《結果をふまえた今後の取組》「語い等」現在行っている毎時間の単語テストを継続して行う。「英文構成」主語＋動詞の文から少しずつ言葉を増やして英文を書く練習を通して、英文構成の基礎を図る。「読解」始めは3行ぐらいの英文を瞬時に理解する練習をして、慣れてきたら1行ずつ英文を増やしていき、まとまった英文でも焦らず理解しようとする力をつけていく。「リスニング」単語や英文の発音と意味が一致するようになるまでしっかりと発音練習を行う。

### 2年

英検4～5級レベル:スコア 0～400点

《結果の概要》どの観点も大阪市平均を下回っている状況で約7ポイントの開きがある。少しずつ英語を理解する力を身につけてきたが、まだ、約7割の平均正答率にとどまっている。  
《結果をふまえた今後の取組》「英文構成力」が弱いので、語順になれる練習や、教科書の音読を行い、新しく出てくる文法事項をしっかりと理解させた上できちんと訳せるようにする。和訳できるようになればそれらを再び英訳できるようにする。単語・熟語の語いを増やす。日常会話を増やし、疑問文に対し、Yes, Noだけでなく応答表現もできるように取り組む。

### 1年

英検5級レベル:スコア 0～340点

《結果の概要》どの観点も大阪市平均を下回っている状況であるが、特に英文構成力は大阪市平均から19ポイントの開きがある。リスニング力は約8割の平均正答率となっており、概ね高い数値を示している。  
《結果をふまえた今後の取組》基礎・基本の定着のため、家庭学習の徹底と充実を図る。「英文構成力」を高めるため、書く活動や小テストなどを増やす。リスニング力については、日頃の発音練習やペアワーク等の効果がみられているので、今後も続けていきたい。